

第34回北海道高齢者卓球大会
(兼 34回全国健康福祉祭神奈川県大会予選会)

相互審判・敗者審判の手引き (ラージボール)

1. 競技開始前

- ・選手確認 ゼッケン着用の確認と共に、対戦表との照合。
- ・ユニフォーム確認 (公財) 日本卓球協会公認用具指定業者のもので公認マークが付いているかどうか。
- ・ラケット確認 ラケットは JTTA、ラバーは表ソフトで JTTA か ITTF から公認されているか。ラバーのはみ出しや欠損はないか、平坦であるか 等。
- ・ボール選択 要求が異なる場合は、拳により決定。(材質及びメーカー)
- ・サービス・レシーブ・エンド選択の拳
- ・開始前の練習時間計測 (1分以内。)

2. 競技中

- ・開始時の宣告 ファーストゲーム ○○ トゥ サーブ。ラブオール。
- ・時間計測 1 ゲーム毎に計測する。開始後 8分経過した場合は促進ルールが適用され、そのマッチ終了まで継続する。但し、8分経過時に双方の得点合計が 18 点 (9-9、10-8) 以上の場合には適用されない。促進ルール適用の場合は、本部にストロークカウンターを要請する。
- ・カウントコール ポイント決定後直ちに宣告 (選手に聞こえるように)。
- ・レット・ストップ 選手に聞こえるように宣告し、同時に右手を頭上に高く上げる。
- ・競技の継続性を促す タオル使用時やポイントの合間が長引かないようにする。
- ・サービス確認 オープンハンドであるか、台より下がっていないか、ほぼ真上に投げ上げているか、落下途中の打球を確認出来る高さに投げ上げているか、落下途中で打球しているか、打球点が台上でないか、レシーバーから見えているか、等
- ・ゲーム終了宣告 11-X。 ゲーム トゥ ○○。(宣告と同時に勝者側に腕を伸ばす。)
- ・ゲーム間の計測 1分以内。超過する前にタイム宣告。
- ・マッチ終了宣告 11-X。 ゲーム アンド マッチ トゥ ○○。(宣告と同時に勝者側に腕を伸ばす。)

【ハンドシグナル】

1. 1人審判の場合

カウント器を持ちながらの場合、開始時の

【副審ネット・ストップ】

サーバーと主にレット、勝者。
必要なときにサーバー。

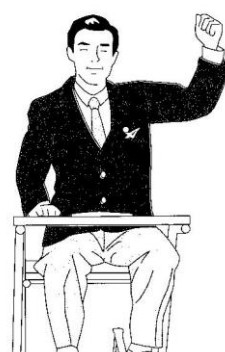
2. 2人審判の場合

主審～開始時のサーバー、ポイント、レット、
勝者。

副審～ネット、ストップ、副審側のサイド判定。

【主審ポイント】

【主審レット】



【時間計測】 練習 1 分、ゲーム 8 分、ゲーム間 1 分